

現地からのお便り

森林再生事業の進捗

1～3月度は、地元住民にも多く参加し、合計 150 ヘクタールの土地に植林を行いました。この時期は雨期にあたり、植林木の生育にはとても良い環境です。また、定期的に手入れをすることで、ほとんどの植林木が枯れることなく、すくすくと育っています。

ダイキンの森には、地元住民が選んだサトウヤシ、ジャックフルーツ、ランブータン、ナツメグなど、果物がとれる樹も植えられています。大きく育て、色とりどりの実をつけてくれるのが楽しみです。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

音楽で環境を学ぼう

音楽は世界共通。みんな音楽が大好きです。音楽は環境を守ることの大切さも伝えることができます。私たちは、移動環境教育の中で、子供たちの環境に対する意識と理解を高める方法として音楽を活用しています。自然と保全をテーマとした歌を作り、学校で子供たちと一緒に歌っています。みんなの前でも堂々と歌う子供たちには感心するばかりです。音楽で環境を学ぶというこの活動が子供たちの豊かな未来につながることを願っています。

「To Be Green」

目をあけると 新しい空気 朝を伝える自然がありました
太陽を迎える歌を歌う鳥が 木々の間を飛んでいました

今はもうありません
私の森はもうありません

私の森をみどりにしてください 森をもう傷つけないでください
私の森をみどりにしてください 自然をもう傷つけないでください

わたしたち人間のためにも



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

国立公園の生き物調査

イノシシはインドネシアでよく見られる動物です。グヌングデ・パングランゴ国立公園の中に仕掛けたカメラでも頻繁に撮影されています。そんなイノシシも農民にとっては、大切に育てたトウモロコシやキャッサバに被害を及ぼすありがたい存在です。イノシシが増えすぎるのを防ぐために、捕食者であるジャワヒョウが森にすんでいるということが、森の生態系のバランスを保つ上で重要な役割を果たします。ジャワヒョウにとってイノシシは重要な獲物なのです。



(c) Conservation International, Photo by Anton Ario

※画像および文章の無断転用はご遠慮下さい。